

## 活動報告

## 日本子ども虐待医学研究会

—その発足のいきさつと第3回学術集会までの経過—

小池通夫<sup>1)</sup>

JaSPCAN は発足以来、社会の要望に応える学術団体として会員数を増し、学術集会は今年(2012年)の高知で18回を迎える。JaSPCANの特徴は、多彩な異分野の会員が一同に会して、相互に刺激を与えつつ知識を拡充して行くことにある。医学・医療もその1分野を担ってきたが、一言に医学・医療といっても子ども虐待に直接かわる科だけでも小児科、小児救急、児童精神科、また一般外科の外にも脳神経外科、整形外科もあり、放射線診断学、眼科、歯科など、あらゆる科に及ぶ。虐待に関係する子どもは、医師なら誰でも何時遭遇するかわからない。診断には広くこれを支える医師の関心を集め、レベルアップをはからねばならない。さらに、ケガと思いついて入院させた子の真の原因が、看護師の注意深い観察眼で明らかになるケースはしばしば見られる。このように医学・医療畑といってもそれ自体が多分野でお互いに異分子、別世界である。唯一の顔を合わせる場が、年1回のJaSPCAN総会のしかも2時間ほどの分科会だけで満足のできないことは、当然の話で常々何とかせねばならぬと思っていた。

その機運が熟し、さらにJaSPCAN理事長 小林美智子先生の示唆もあり、2009年に診療科を超えた呼びかけを行い、短期間で参集された47人によって、発起人集会の形で第1回研究会を2009年

8月1日、2日に開催することができた次第である。

第1回の大会長は、折よく「第4回小児救急ワークショップ in 北九州」を主催される市川光太郎先生(北九州市立八幡病院長、日本小児救急医学会理事長)にお引き受けいただき、同じ北九州市の西日本総合展示場新館AIMで、一部プログラムは、共同開催の形で開催された。

さらに、発起人総会も開催され、会則の制定、初代会長として発起人代表の小池通夫(和歌山県立医科大学小児科名誉教授)がそのまま選任され、市川光太郎、奥山真紀子、宮本信也の各副会長、山田不二子事務局長以下理事、監事と運営委員の役員構成も決定された。(詳細は本研究会HP <http://jamskan.childfirst.or.jp/> をご参照ください)

結局、第2回、第3回の研究会も市川光太郎先生の下で同じ会場で開催されることになった。

会の目的として、会員のボトムアップとピアサポートとしてのレベルアップの二兎を追うことにしたが、毎回多くの分野からの発言で激論が続き、1時間以上終了が遅れ、嬉しい悲鳴をあげているがこれも想定内のことである。会の運営も毎回会員数、参加者も増加し、また第3回からは学術集会(参加費)と研究会運営(年会費)を完全に分離することができ、ホームページも立ち上げられた。虐待に関する検討、相談は厳密な守秘が要求される分野で、2011年からその準備段階として理事相互間での使用を開始した。

今年の第4回研究会から揺籃の地を離れ、大阪で松岡太郎先生(市立豊中市民病院小児科部長)

2012年4月19日受理

On Japanese Medical Society on Child Abuse and Neglect (JaMSCAN): From birth through the 3rd annual meetings

1) 日本子ども虐待医学研究会, Michio Koike: Japanese Medical Society on Child Abuse and Neglect: JaMSCAN

の下で、2012年8月4日(土)10時30分から、5日(日)15時まで大阪市立医療センター・さくらホール(大阪市都島区)で開催することになった。すでに2回の勉強会(2011年11月12日, 2012年3月17日)も終わり、着々と準備が進められている。

本研究会は上述の通り、発足時からJaSPCANの分科会的立場にあり、今回JaSPCAN理事会の承諾をいただき、学会編集委員会の西澤哲編集長の許可を得て、本研究会の記事とプログラム内容を学会誌「子どもの虐待とネグレクト」に掲載していただけることになった。今回3回までのプログラムを示し、次の第4回から開催の度に内容とプログラムおよび抄録を掲載予定である。

日本子ども虐待医学研究会に関心のある方のご参加をお待ち申し上げます。

## I 第1回学術集会

2009年8月1日(土)14時~2日(日)12時  
西日本総合展示場 新館 AIM 3F  
参加者 61名 市川光太郎会頭

### 1. 設立記念講演

小児の脳神経外科救急疾患の診断と治療  
——虐待による乳幼児頭部外傷を中心として  
長嶋達也 兵庫県立子ども病院脳神経外科部長

### 2. 教育講演

小児虐待の口腔内病変  
山本伊佐夫 神奈川県立大学歯科法医学教室

### 3. 設立発起人総会

## II 第2回学術集会

2010年7月31日(土)13時~8月2日(日)13時  
西日本総合展示場 新館 AIM 3F  
参加者 111名 市川光太郎会頭

### 1. 教育講演①

虐待による乳幼児頭部外傷

——臨床医学と法医学および児童相談所や警察  
検察との連携

山崎麻美 国立病院機構大阪医療センター副院長 脳神経外科

### 2. 教育講演②

法医学的な損傷のみかた

藤田眞幸 慶応大学医学部法医学教室教授

### 3. 一般演題

1) SIDSのきょうだい発症と思われた被虐待児  
きょうだい

藤本保 大分子ども病院

2) 乳幼児揺さぶられ症候群(SBS) /虐待による  
乳幼児頭部外傷(AHT)の症例提示と討論

野口磨依子<sup>1)</sup>, 城谷吾郎<sup>2)</sup>, 荒木尚<sup>3)</sup>, 本山景一<sup>4)</sup>

1) 北九州市立八幡病院小児科, 2) 福岡大学筑紫病院小児科, 3) 国立成育医療研究センター脳神経外科, 4) 茨城県立子ども病院小児科

## III 第3回学術集会

2011年7月23日(土)14時~7月24日(日)14時  
西日本総合展示場 新館 AIM 3F  
参加者 94名 (医師 67, その他 27)  
市川光太郎会頭

### 1. 特別講演

米国小児救急医療における子ども虐待の現況  
井上信明 東京都立小児総合医療センター

### 2. 特別講演

乳幼児に急性死(来院時心肺停止)を来す疾患  
とそのアプローチ

河島尚志 東京医科大学小児科准教授

### 3. 一般演題-I 子ども虐待への対応

1) 本邦の子ども虐待に対する医療機関内虐待  
対応組織化に関する現況調査

溝口史剛<sup>1)</sup>, 山田不二子<sup>2)</sup>, 奥山眞紀子<sup>3)</sup>

1) 済生会前橋病院小児科, 2) 子ども虐待ネグレクト防止ネット  
ワーク, 3) 国立成育医療研究センター

2) 群馬県内における医療機関向け虐待各種ガ

イドを活用した、医療機関内虐待対応組織化の試み

大川友子<sup>1)</sup>、望月裕子<sup>2)</sup>、関上里子<sup>1)</sup>、中井正江<sup>3)</sup>、溝口史剛<sup>4)</sup>

1) 群馬大学附属病院医療相談部、2) 済生会前橋病院医療相談部、3) 前橋赤十字病院医療相談部、4) 済生会前橋病院小児科

3) 大阪市子ども相談センターにおける医療的機能強化事業の取り組み

池宮美佐子<sup>1)</sup>、宮村鈴子<sup>2)</sup>、子ども虐待アセスメントシート作成委員会<sup>2)</sup>

1) 大阪市保健所、2) 大阪市子ども相談センター

4) 本邦の子ども虐待に関する医学部卒前教育に関する現況調査

溝口史剛<sup>1)</sup>、山田不二子<sup>2)</sup>、奥山眞紀子<sup>3)</sup>

1) 済生会前橋病院小児科、2) 子ども虐待ネグレクト防止ネットワーク、3) 国立成育医療研究センター

#### 一般演題- II 頭部外傷

5) 児童虐待診療における脳神経外科医の役割  
荒木尚<sup>1)</sup>、師田信人<sup>1)</sup>、奥山眞紀子<sup>2)</sup>

1) 国立成育医療研究センター脳神経外科、2) 国立成育医療研究センターこころの診療部

6) 虐待による小児頭部外傷死亡例の検討：脳死下臓器移植の観点から

長嶋達也、河村淳史、山元一樹

兵庫県立子ども病院脳神経外科

7) 虐待による頭部外傷 AHT : abusive head trauma の検討

山崎麻美、押田奈都、壺中正博

国立病院機構大阪医療センター脳神経外科

8) 子ども虐待・ネグレクト事件の刑事裁判における臨床医の役割

山田不二子

子ども虐待ネグレクト防止ネットワーク

#### 一般演題- III 脳死と虐待

9) 大阪府立母子保健総合医療センターにおける脳死下臓器移植と虐待診断

佐藤拓代<sup>1)</sup>、小杉恵<sup>2)</sup>、鈴木保宏<sup>3)</sup>

1) 大阪府立母子保健総合医療センター企画調査部、2) 同子どものこころの診療科、3) 同小児神経科

10) 法に規定する脳死判定を行ったとしたならば

——院内虐待対策チームによる3年間の後方視的虐待リスクの検討

本山景一<sup>1)</sup>、泉維昌<sup>1)</sup>、木村仁美<sup>2)</sup>、宮坂洋子<sup>2)</sup>、土田昌宏<sup>1)</sup>

1) 茨城県立こども病院小児科、2) 同成育在宅支援室

#### 一般演題- IV 医療ネグレクト

11) 病院勤務小児科医の医療ネグレクトの認識と対応への現況

柳川敏彦 和歌山県立医科大学保健看護学部

12) 第2子の体重増加不良で発覚した医療ネグレクトの姉妹例

土方妙江<sup>1)</sup>、西亦繁雄<sup>1)</sup>、柏木保代<sup>1)</sup>、河島尚志<sup>1)</sup>、宮島祐<sup>1)</sup>、武隈孝治<sup>1)</sup>、星加明德<sup>1)</sup>、水上創<sup>2)</sup>

1) 東京医科大学小児科、2) 東京医科大学法医学

13) 代理ミュンヒハウゼン症候群の母親がこどもに与える精神的影響

服部圭太 東京西徳州会病院 小児医療センター

14) 性的虐待診断におけるピットホール  
永光信一郎、山下裕史朗、松石豊次郎

久留米大学小児科

#### 一般演題- V 医療対応

15) 腹痛・腹部膨満・低栄養状態で入院した14歳ネグレクト男児例

城谷吾郎<sup>1)</sup>、森島直美<sup>1)</sup>、岡陽一郎<sup>3)</sup>、安本佐和<sup>1)</sup>、小川厚<sup>2)</sup>、廣瀬伸一<sup>1)</sup>

1) 福岡大学病院小児科、2) 福岡大学筑紫病院小児科、3) 福岡大学病院小児外科

16) 当院における被虐待児症例の検討

井福俊允、中谷圭吾、弓削昭彦、西口俊裕

宮崎県立宮崎病院小児科

17) 当院における集中管理を要した虐待例の検討  
永松扶紗、持永將恵、平井克樹、上野聖晃、石津良子、二神良治、塵岡健、右田昌宏、古瀬昭夫、西原重剛

熊本赤十字病院小児科

18) 医療機関の見解の違いから虐待の社会的診断ができなかった症例

井本成昭、天本正乃、市川光太郎

北九州市立八幡病院小児救急センター